

**nano tech 2013 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議で
富士フィルムが「グリーンナノテクノロジー部門賞」を受賞！
～持続可能な社会実現に貢献する、先進の技術開発が高評価～**

2013年2月12日

富士フィルム株式会社(社長:中嶋 成博)は、平成25年1月30日(水)～2月1日(金)に東京ビッグサイトで開催されたナノテクノロジーにおける世界最大の展示会「nano tech 2013 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議」*1に出展し、出展社を表彰する「nano tech 大賞」にて、「グリーンナノテクノロジー部門賞」を受賞いたしました。

今回の展示では、『夢をみる力。未来をつくる力。』というコンセプトのもと、環境・エネルギー分野として「フレキシブル熱電変換モジュール」や「高性能太陽電池用色素」などさまざまな分野への応用が期待される「ナノ分子設計技術」、ヘルスケア分野としてサプリメント「DHA・EPA&アスタキサンチン」に採用しているナノサイズ自己乳化技術、「マイクロニードルアレイ」を実現した「薬剤送達技術」、次世代エレクトロニクス分野として高効率な「有機EL照明用光取り出し部材」に採用している「ナノ粒子分散塗布技術」など、幅広い技術をアピールしました。

今回の受賞は、「様々な場所に張り付けて身近にある排熱を利用できるフレキシブルな熱電変換モジュールや、世界最高効率の色素増感太陽電池など、省エネルギーや省資源に関する独自技術を数多く展示し、持続可能な社会実現に貢献する技術を開発した」として、今年の開催テーマ“Life & Green Nanotechnology 10⁹ Innovation”に沿った、高い技術力が評価されたものです。

「nano tech 大賞」は、展示会出展者を対象に nano tech 実行委員会による選考を経て決定されるもので、各技術分野の斬新かつ先駆的な技術を分野ごとに顕彰する部門賞と、最優秀な出展者に与えられる大賞があります。当社は2009年の材料・素材部門賞、2011年の nano tech 大賞、2012年のライフナノテクノロジー部門賞に続く4度目の受賞となりました。

富士フィルムは、出展した多数の企業の中から「グリーンナノテクノロジー部門賞」に選出されたことを励みに、これからも優れた製品の開発に取り組んでいきます。

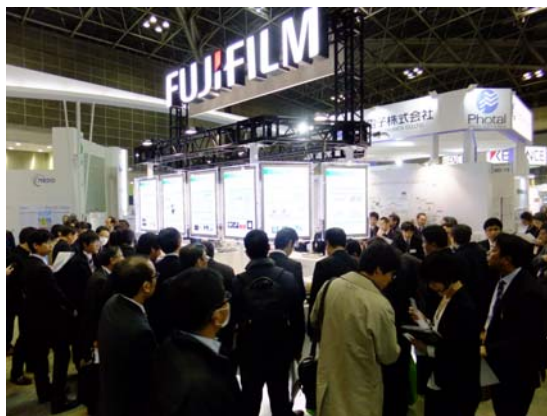
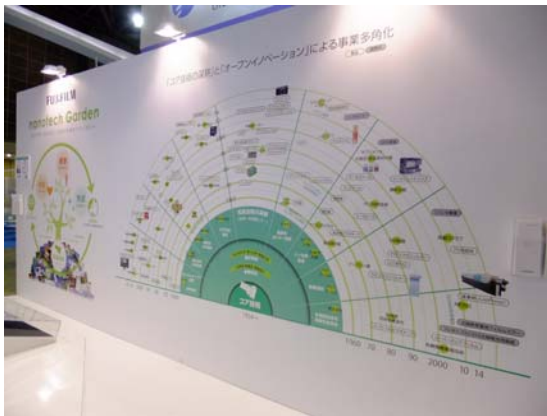
*1 最先端のモノづくりに欠かすことのできない基盤技術「ナノテクノロジー」に関する世界最大の展示会。今年は12回目の開催で、海外235企業・団体を含む総計587の企業・団体が出展し、延べ46,846名が来場。

＜富士フィルムの展示内容＞

分野	展示技術	展示テーマ
環境・エネルギー	ナノ分子設計技術	●フレキシブル熱電変換モジュール 身近にある排熱を利用して発電するシートを開発
		●高性能太陽電池用色素【初】 世界最高効率(11.9%)のシングルセル色素増感太陽電池を実現
		●リチウムイオン電池材料(電解溶液用添加剤)【初】 「安全で長持ちするリチウムイオン電池」を実現する電解液用添加剤
	ナノデバイス技術	●軽量高効率CIGS太陽電池 曲げても割れない、色ムラがない太陽電池
	ナノ構造制御技術	●光波長選択反射フィルム UVからIRまで所望の光を組み合わせた反射/透過のデザインを可能にするフィルム

ヘルスケア	ナノサイズ自己乳化技術	●高吸収・高浸透を実現する独自のテクノロジー(DHA) 有用成分をよりよい形で摂れるようになったサプリメント
	再生医療用技術	●再生医療足場材 リコンビナントペプチド(RCP) ヒトコラーゲン類似構造で細胞接着性に優れ、安全性の高い再生医療用足場材
	薬剤送達技術	●マイクロニードルアレイ 通常の注射に比べて痛みが少なく、取り扱いが容易なマイクロニードルアレイ
	ナノ粒子分散塗布技術	●有機EL照明用光取出し部材 微粒子による散乱効果で有機EL照明の光取り出し効率2倍を実現
	ナノ構造制御技術	●“透明”高ガスバリアフィルム 高い曲げ耐久性を持ち、安定した高ガスバリア性を実現
	ナノデバイス技術	●3次元加工できる透明導電性フィルム“EXCLEAR” 超低抵抗を実現したフレキシブルな透明導電材料
	レオロジー制御技術	●電気音響変換フィルム:BEAT 弾性率に周波数分散を持たせることで、優れた可撓性と音響特製を両立
	ナノ加工技術	●ナノ構造Ni金型 1枚のSi原盤から大量複製を可能にし、ナノインプリント技術で量産に貢献
	半導体接続技術	●微細Viaを配した異方性接続部材 2. 5D/3D実装に対応可能な「どこでもビア」で次世代エレクトロニクスに貢献
	ナノ分子設計技術	●高フッ素含率の多官能アクリルモノマー 低屈折率、硬化性能、溶剤溶解性を高いレベルで実現する新規モノマーを開発

展示会場での当社ブースの様子



授賞式の様子



nano tech 実行委員会 副委員長 名古屋大学 大学院工学研究科化学・生物工学専攻 教授 馬場 嘉信さん(写真左)から盾を贈呈される、当社 井上取締役・常務執行役員 R&D 統括本部長 (写真右)

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。
 報道関係 広報部 TEL 03-6271-2000
 出展技術に関して 技術戦略部 TEL 03-6271-2571